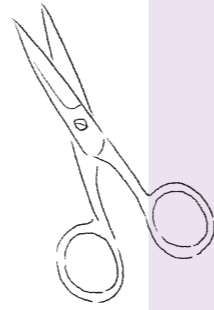


ポタニカルクイリングのインストラクターをレポート!
今回は東京都府中市で教室を運営されている、しらすすみさんにお話を伺いました。

しらすすみさん
Suemi Shirasu



しらすすみさんのクイリング教室
「しらすすみ ペーパークイリング教室」
東京都府中市
<https://totoquilling.wixsite.com/totoquilling>



BQJ クイリングを始めたきっかけを教えてください。

しらすさん クイリングとの出会いは9年前位です。10年に及ぶ舅の介護に疲れていた時期で、気分転換をしたいと思っていたところ、新聞の折り込みチラシで島根郷子先生がカルチャーセンターで開講されていた教室を見つけました。「これだ!」とひらめき、月一回のレッスンに通うようになりました。島根先生が教室を開講されていなかったら、クイリングとの出会いは無かったと思います。

BQJ 教室を開講した経緯を教えてください。

しらすさん BQJの認定講師資格をとりましたが、「人に教えるなんてとんでもない!」と思ってました(笑)。ただ、趣味だけで終わらせるのはもったいないとも感じていました。そんな時、友人から教えてほしいと言われ自宅でレッスンを始めました。同じ時期にBQJのホームページで私を見つけてくださったカルチャーセンターから講師のお誘いをいただきました。どちらも生徒さんお一人だけのマンツーマンレッスンが1年弱続きました。そのころ常に心していたのは「腐らず、焦らず、驕らず、そして楽しみながら。」でした。

BQJ 教室の運営状況と教材に関して教えてください。

しらすさん 教室を始めて5年になります。現在は自宅教室とレンタルルームでレッスンを行っています。月3回のペースで20名弱の生徒さんが通って下さいます。カルチャー教室は3年間で10名に増え、他の講師にバトンタッチしました。レッスンでは私のオリジナルの課題とBQJの認定教材

を使っています。3年目くらいまでの生徒さんには私が課題をご用意しますが、それ以降はお好きな課題の中から選んでいただいています。

BQJ 教室をやっている楽しいと思うことは何ですか?

しらすさん 生徒さんに私の作った課題をお見せしたときに、「これ作ってみたい!」と言って頂ける事が一番の励みになっています。レッスン課題の制作では、固定概念に囚われず、クイリングでできることはなんだろう?と自分の頭で考えるようにしています。教室の運営はドキドキすることもありますし、責任も感じますがとても充実した仕事です。

BQJ これから教室をはじめの方へアドバイスをいただけますでしょうか。

しらすさん コロナ禍もいつかは終息する時が来ます。その時まで、焦らずにクイリングの可能性を信じ、ご自分の感性に磨きをかけて創作活動を地道に努力を重ねることが大切だと思います。

BQJ 今後の抱負・目標を聞かせてください。

しらすさん クイリングの持つ可能性を広げ、デザイン的にもレベルの高い作品を作って行きたいと思えます。その作品を見た方が、「私も作ってみたい!」と思って教室に通っていただく流れができれば良いと思います。

取材後記 2016年のAJCクリエイターズコンテストのペーパーアート部門では大賞(内閣総理大臣賞)を受賞した実力派のしらすさん。コロナ禍で大変な時期にもかかわらず、ペーパークイリングの可能性に目を向けたポジティブな発言が目立つインタビューでした。



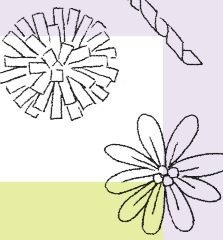
レンタルスペースでのレッスンの様子



しらすさんのデザインによるクイリングキット



教室で使用している課題「刺繍シリーズ」



BQJチーフインストラクター
なかたにもこの一言コラム

「クイリングの新しい可能性」

なかたにもこの
Instagram
@maggiequilling

Check!

今年是世界中が新型コロナウイルスに翻弄された年でした。まだその猛威は衰えを見せていませんが、一日も早く収束に向かうことを願って止みません。私の教室でもアクリルボードの設置や消毒液の準備に追われましたが、さらにZoomを使ったオンラインレッスンやインスタグラムのライブにも挑戦し、どうにか生徒の皆様とのコミュニケーションを取り続けることを試行錯誤した年でした。そう考えると、これまでの方法から新しいカタチへの一歩を踏み出すことができた年でもありました。特にインターネットの活用は新しい人たちとの出会いを生み、大きな収穫でした。

新しい出会いといえばもう一つ、「フルドゥグラス」との出会いがありました。フルドゥグラスとは樹脂タイプのハーバリウム液で、一般社団法人ユニバーサルデザイナーズ協会がプリ

ザーブドフラワー作品の材料として開発されたものです。樹脂の中にプリザーブドフラワーを入れて固めるとも素敵な作品ができます。この度、ポタニカルクイリング・ジャパンではユニバーサルデザイナーズ協会のご協力を得て、このフルドゥグラスとクイリングをコラボレーションさせた「クイリングフルドゥグラス」の講座を制作いたしました。来る年はこの講座を通じ、プリザーブドフラワー愛好家の皆様を始め、新しい方たちとの出会いが全国に広がっていくことを期待しています。



講座で制作する
課題3種

※「フルドゥグラス」は一般社団法人ユニバーサルデザイナーズ協会の登録商標です。



BQJクリエイティブアドバイザー
小紙陽子のクルクルよもやま話

「クリエイティブアドバイザーとして…」

毎年恒例のインストラクター展覧会。今年は新型コロナウイルスの影響で延期になりました。私がインストラクターの皆さんと顔を合わせることができた年に一回の大事なイベントなので、残念ひとしおです。

展覧会場では、お声掛けくださった方々の作品を個別に講評させていただくのが恒例行事となっています。私などがコメントするには恐れ多い素晴らしい作品ばかりではありますが、グラフィックデザイナーとしての視点から、気がついた点をコメントさせていただいています。

一番多くご意見させていただいたことは、額についてだと思います。「額が作品の雰囲気に合っていない」「額が作品の比率に合っていない」など、

額と作品のバランスについてアドバイスさせていただきました。作品に理想的な額を見つけるのは難しいですよ。でもぴったり合えば魅力も倍増するので頑張りたいところです。

あとは、作品を乗せる土台についてや、作中の文字のクオリティといった、作品の内容というよりは、人により良く見せるための、いわば「お化粧の仕方」についての指摘を多くさせていただいています。作品はきれいに出来ていても、付属品がそれに見合っていないというケースが多々あります。魂込めて作った価値のある作品です。土台などの付属品もすべて質の高いものを使用しましょう。

とは言え、私個人の感想でしかないので、「こういう見方もあるんだな」く

表紙作品の
アーティストに聞きました
作品に込めた思い

10

ARTIST
あこう のぶこ

和風で柔らかな色合いの作品をと思い出来上がった花毬。作っている間に洋風でも作りたくなり、ダイヤモンドリリーの花を「埋まらない!」と焦りながらも楽しくなって夢中で作った作品です。



去年展示した作品。展覧会用の作品は毎年の年賀状を飾っています。今年はどうしょー。

らいの軽いノリで聞いていただくと助かりますが、我が子のような作品に対する意見は簡単にはスルーできないですよ。もしかして深く傷つけることを言ってしまうかもしれない…。そんな方がおりましたら、今度の展覧会ですれ違いざまに足を踏んづけるなどの報復措置をしていただければと存じます。

「小紙さんは自分が見ないふりをしていた部分を鋭くついてくるので目が覚める」と言ってくれる方がいます(多分)。そう言ってくれれば、クリエイティブアドバイザーとしてちょっとは役に立っているのかなと安心します。次の展覧会で踏まれる足の数で、その真価が問われるでしょう。